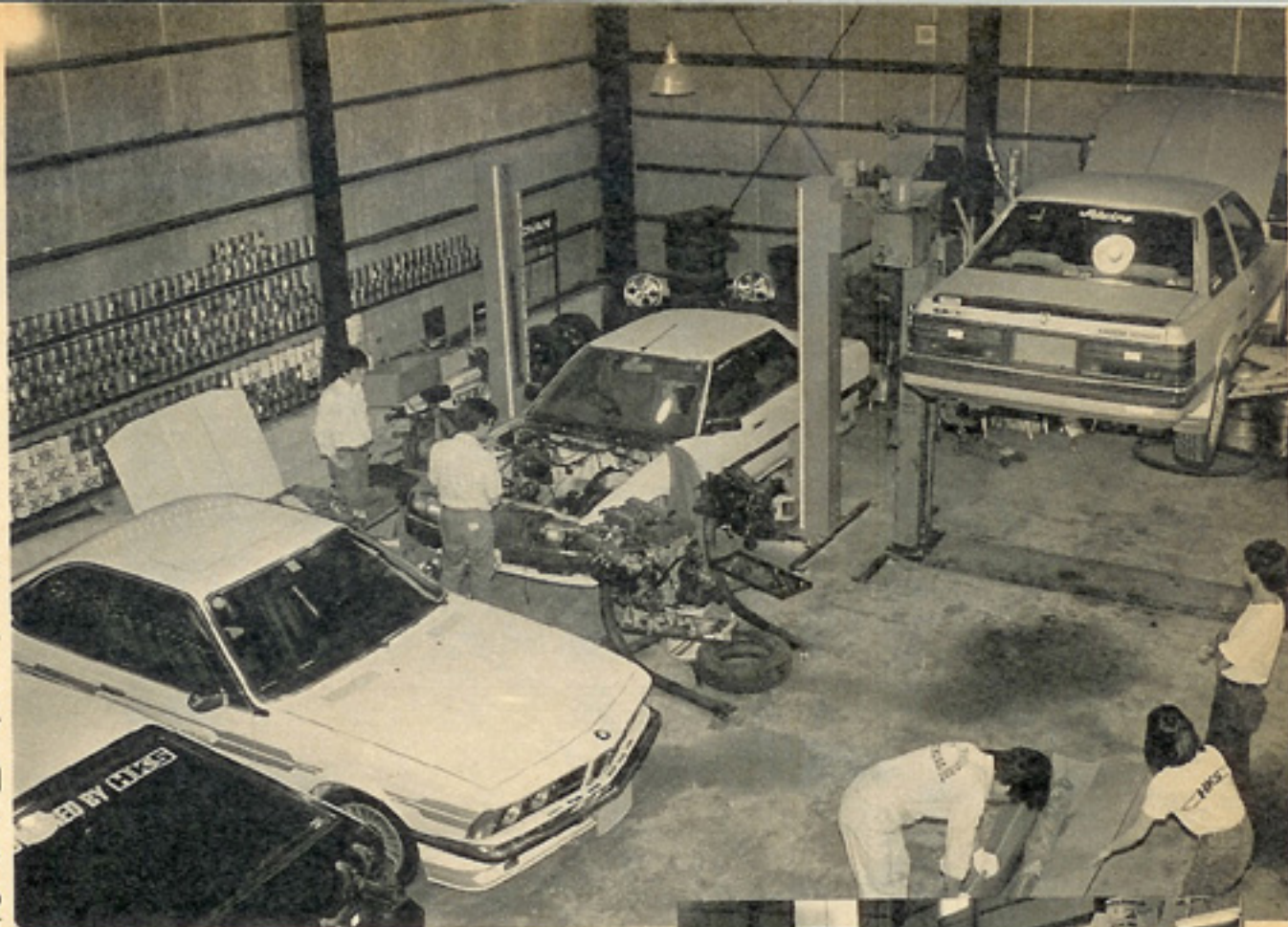


ワイワイ、ガヤガヤがこの特徴。サービスもいっぱい

それは名物「人間シャーシダイナモ大会」。ローラーの上をハムスターのように走り回り、2PS以上を記録した人は晩メシ御招待がつくのだ。当探検隊も挑戦しましたが、残念ながら1PSでした。わりとシャレっぽくみんなでワイワイガヤガヤと楽しいのです。

2年前に300km/hを越えたことも、いろいろあっただろうが、振り返ってみると楽しいものだと思える。原さんは語る。要は結果、結果が大



▲工場はかなり広い。高さが10mぐらいあるのでなおさらそう感じる

事。チューニングに関してこの意見は同じだ。後々まで十分にフォロースする体勢もできているのだ。

お客さんの層は深く、有名人から社会的地位のある人、そして看護婦さんまでバラエティに富んでいる。だいたい平日の7時から8時、土曜日は夜中でも仲間たちが集ってくるのだ。限られた人たちのチューニングではなく、その裾野を広げて行くのがトリアルの方針でもある。10年前だった女の子がチューニングカーに乗っていると絵になつたが、今では常識のようになってきているのも事実である。



▲名場ノ 人間シャーシダイナモ。2PS以上記録した人は晩メシプレゼントがあるかも?

「チューニング屋としてのイメージも捨て難いが新しい方向へ振る必要もある」とも語る。が、「要は楽しくやればいい」と笑顔がこぼれる。そういった意味で年間2回、中山サーキットを使っての走行会(トリアルにはJAF公認モータースポーツクラブもある。)が行なわれている。

この走行会でもトリアルのユニークな面が出てくる。

たとえば模擬レース。このレースで熱くなる人も多数。もちろんトラブルも多いが大きい事故もない。やはりマナーを守って走る人が多いのだ。ドライブングテクニクもグンバツの娘ばかりで、これが楽しみでくる男の子がいるとかいえないか。今後は10月にやる予定で、参加したい人はぜひトリアルに遊びに行くべし。

もちろん本業のチューニングのお客さんも大歓迎だから行つてちょ。お店自体は、男性陣は牧原店長を始め有馬チーフメカ、嶋仲メカ、女性陣は香代ちゃん、慶子ちゃん、多美子ちゃんの3人。普通、チューニングショップというと、女性はいないかいないかというところだ。

ハードからソフトまで、ファミリの雰囲気でもこなしてくれるのがトリアルだ。しかもジョーダンも十分に通用するので、我こそはと思う人は挑戦してみてもどうだろうか。

歴史

昭和57年7月：東大阪市にて牧原・有馬氏の2人で開店

トリアル・社名の由来

昭和51年、牧原さんのお兄さんと大阪・八尾市にチャレンジというショップをオープン。それから6年後の57年に牧原さんと有馬さんの2人で東大阪市夢江にトリアルを開店する。そこでお店の名前だが、チャレンジ挑戦と意味の近い言葉を探しトリアルと決定した。その言葉の中には「なんでもやる」意気込みといった意味が込められているのだ。お店の場所は開店当初からずっとこの場所である。



▲嶋仲直樹メカニック 勤続1年 日本一のチューナーになることが夢なのだ



▲有馬西郎チーフメカニック 開店以来からの頼しい存在。割と二枚目なのだ



▲牧原道雄店長 人生はシャレ、シャレが好き。でも仕事はシャレじゃありません



▲大西慶子ちゃん 勤続1ヶ月 店長に怒られっぱなしでもメゲないB型なのだ



▲石山香代ちゃん 勤続3ヶ月 通称ネコちゃん。愛車はK P61



▲今村多美子ちゃん 勤続10ヶ月、自分の勉強にもなるこの仕事に意欲いっぱい